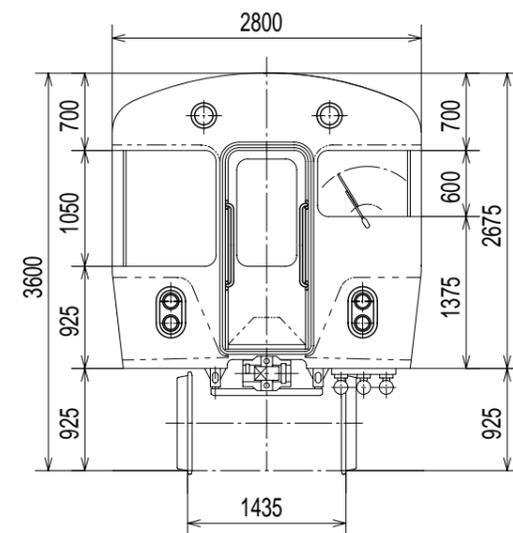
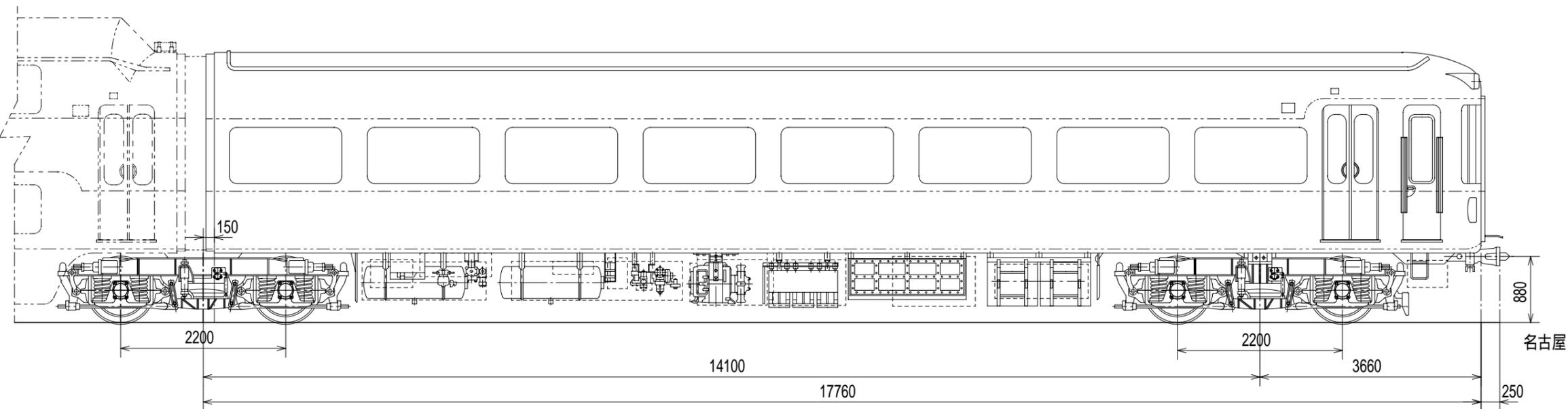
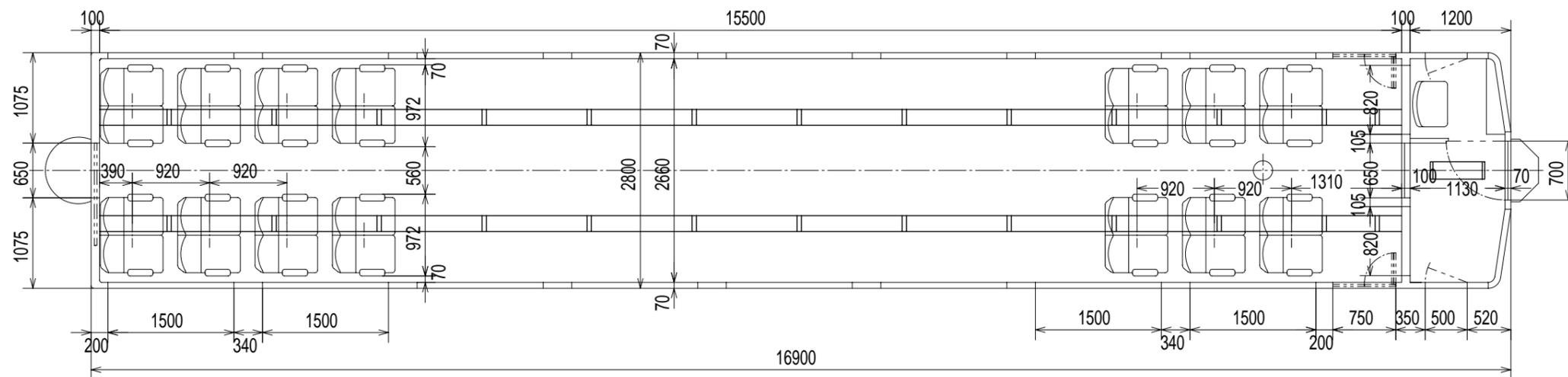


近畿日本鉄道 モ10300系形式図



1959年 大阪～名古屋間直通運転開始と共にデビューした特急電車である。ピスタカーと呼ばれ、前年試作された旧ピスタカーを改良・量産したもの。日本の代表的な特急電車の一つにかぞえられる。モ10100・サ10200・モ10300の3形式を連結的に固定して1ユニットになり、通常これを2組連結した6車体で活躍する。輦数は18ユニットすなわち54車体。台車は全て電動機を装備しており、形式はKD30とKD30A、モ10100形はパンタ2個付、モ10300形はパンタ無したが、前頭部にはそれぞれ流線型と半流線型とがあり、

そのためA,B,Cの3種類の編成に分かれる。図はA編成で、これとは逆に左の10100が半流線型になり、右の10300が流線型になったものがB編成、両端共半流線型がC編成と呼ばれる。このピスタカーの特徴は、なんとと言っても2階式になったサ10200で、旧ピスタのそれより一段と洗練されたデザイン。また前頭部のスタイルも流線型、半流線型ともに独自の美しさがある。冷房装置、シートラジオ、列車電話など、国鉄のこだま形に対抗した装備も整っており、塗色はオレンジとダークブルー、製造は近畿車輛。